

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成23年8月19日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0874200413		
法人名	社会福祉法人 石下福祉会		
事業所名	グループホーム 千代川さくら館	ユニット名	1
所在地	〒304-0823 茨城県下妻市五箇574		
自己評価作成日	平成23年2月19日	評価結果 市町村受理日	平成23年8月15日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	茨城県福祉サービス振興会のホームページ「介護サービス情報検索」から情報が得られます。
-----------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成23年4月27日	評価確定日	平成23年8月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

力を入れている点、アピールしたい点は、3点あります。まず入居者と一緒に土づくりから行った野菜を献立に織り交ぜながら、お年寄りの“幼い頃の味”を大切にし、一緒に調理して食していることです。また、その献立は、併用している特養の管理栄養士に栄養チェックしてもらっているので安心です。摂取量もチェックして、脱水や低栄養状態、過栄養にならないよう注意もしています。次に入居者とその家族、職員の笑顔と笑い声が絶え間の無い事業所であることです。入居者とその家族、職員の昔ながらの“なじみの関係”を築き、一人ひとりを大切にし、共に支え、助け合い、いたわりあいながら暮らしています。最後に入居者の入浴は、できるだけ希望に沿い、2日に1回は入っていただくようにしています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

緑が多く自然豊かな環境に立地し、利用者は季節の移り変わりを感じながら暮らしている。 同一法人が運営する介護サービス事業所と連携を図るほか、協力医療機関が近くにあり、緊急時でも適切な医療が受けられるように支援をしている。 介護計画は利用者や家族等、介護支援専門員、職員で話し合い意見を取り入れて作成するとともに、3ヶ月に1回見直すなどきめ細かな支援をしている。 事業所は認知症について理解を深めるため、職員研修に力を入れている。
--

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人の命は地球より重い」の理念を職員会議等で管理者および職員は常時確認している。利用者の思いを常に考えたケア計画、実践、振り返りをケア検討会議、職員会議で話しあって共通理解のもと利用者をサポートしている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた独自の理念を管理者や全職員で話し合い、作成している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。たとえば、散歩、買い物による地域の人との交流を通じ顔なじみ関係を作っている	利用者は散歩時に地域の人々と挨拶を交わすなど、日常的に交流している。利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、隣接する同一法人の特別養護老人ホームが開催するボランティア慰問会に参加したり、夏祭りや花火大会などの事業所行事に地域の人々を招待しているほか、地域の幼稚園児との交流を支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流スペースでボランティア慰問会、夏祭り、駐車場で花火大会等の開催を地域代表の方に事前に連絡し、地域の方々に参加していただいている。そして認知症高齢者の方と一緒に行動・触れ合ってもらうことで認知症への理解やいざというときに支援をいただけるようなじみの関係を築いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回、家族代表者、地域代表者、行政の方とで開催している。皆さんから率直な意見をお話しいただける場として有効に活用させてもらっている。たとえば、「さくら便り」の発行、職員研修の増加、行事の開催の増加など。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催するとともに、事業所の状況や外部評価への取り組みなどについて報告や話し合いをしている。会議に市職員や家族等の代表、区長などの参加を得ているが、地域の代表者や民生委員の参加を得るまでには至っていない。	運営推進会議に地域の代表や民生委員の参加が得られるように働きかけることを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者は市担当者に事業所の実情や空き情報、ケアサービスの取組みなどを積極的に伝え、連携を図りながら協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及び全職員が身体拘束の内容とその弊害について理解し、話し合ったり勉強会をしている。 転倒防止のためやむを得ず車いす用抑制帯を使用している利用者がいるが、家族等に説明し同意を得るとともに、定期的に見直しや検討をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者・職員は外部研修および内部研修に参加して学習機会を持っている。また、その内容を職員会議において、参加しなかった職員にレクチャーし、その資料を職員がいつでも活用できる場所（事務所）に保管している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者・職員は外部研修および内部研修に参加して学習機会を持っている。また、その内容を職員会議において、参加しなかった職員にレクチャーし、その資料を職員がいつでも活用できる場所（事務所）に保管している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、利用者とその家族に口頭と文書を持って十分説明し、不安や疑問点を尋ね、理解していただいたことを確認し、納得した上で同意のサイン、捺印をしてもらっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1年に1回外部評価を行って、家族の思いを確認する機会を持っている。また、2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、家族側から率直な意見をもらい（意見箱を玄関に設置している）、運営に反映させる機会を設けている。	職員は日々の暮らしの中で利用者の意見や要望を聴いたり、家族等の来訪時や運営推進会議で話を聴き、出た意見等を運営に反映させている。 管理者は年1回無記名の家族アンケートを実施したり家族会を開催し、利用者や家族等の意見等を汲みあげる機会を設けている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を受け入れやすい雰囲気と関係を構築している。打ち合わせにおいて、職員は率直な意見を言える機会を設け反映させている。	代表者や管理者は職員が意見や提案を出し易い雰囲気づくりに努め、ミーティングや申し送り時、職員の全体会議で意見交換を行い、出た意見等を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるよう、給与水準、労働時間、やりがいなど職場環境・条件の整備に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者や職員の研修を積極的にすすめている。月1回の法人内で研修する機会、外部研修に参加させるなど積極的に働きながらスキルアップできる環境作りに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	代表者は、管理者や職員が特養千代川さくら館との交流・合同研修会等で他の地域の同業者と交流する機会を持ち、勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に特に注意して耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時からグループホームの生活に慣れるまで、本人が困っていること、不安なこと、要望等に特に注意して耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等をこちらから尋ねるとともに、常に耳を傾けながら、関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等との話し合いをもち、その話の中で「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、本人の今までの暮らしの中から学んだり支えあう関係を築いている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、喜怒哀楽をともにし、本人を支えていく関係を築いている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、電話・文通などの連絡の支援に努めている	職員は利用者がこれまで大切にしてきた親戚や友人との関係が途切れないように電話や手紙のやり取りを支援したり、利用者が希望する場所に出かけられるように支援をし、馴染みの関係が継続できるよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が楽しく関わり合い、お互いに支え合えるような支援に努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設や自宅に戻るなどしてサービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、本人や家族の求めに応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討して家族の協力をお願いしたり、職員の関りを見直したりして希望に沿うようにしている。	職員は日常生活の中で利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。 帰宅願望がある利用者には家族等の協力を得てしばらくの間自宅で過ごしてもらうなど、利用者の希望にそった支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等を、入浴のリラックスした時やさりげない会話の中で把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。たとえば朝のバイタルチェック、排泄状況などで体の状態を朝の整容までの様子から把握し、職員間で連絡を取り合いその日の生活のサポートを決めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。毎月のケア検討会議、家族の面会時など常に本人の思いを尊重するようなケアを考慮し介護計画を立てている。	利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について利用者や家族等、管理者、介護支援専門員、職員で話し合うほか、月1回のケア検討会議や週1回のケアプラン検討会議で検討し、3ヶ月毎に介護計画を作成し家族等の確認を得ている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録（介護記録）に記入し、職員間で情報を共有しながら（職員会議・ケア検討会議にて）、実践や介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化（個別ケア：外出、買い物、食事を本人のみ変えるなど）に取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意向や必要性に応じて民生委員やボランティア・警察・消防・文化・教育機関などと協力して支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、なじみのかかりつけ医に受診することができる。納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	利用者や家族等の意向を確認し、希望するかかりつけ医への受診を支援しているが、殆どの利用者が協力医療機関をかかりつけ医としている。 眼科や歯科などの通院は家族等と協力し受診を支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の特養の看護職員に気軽に相談できる関係を構築しているため、日常の健康相談や医療行為の支援を得られることができる。そのため、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるようになっている		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。併設した特養とともに週に1回、回診日があり、必要ならば受診できる体制づくりをしている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者・家族と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>契約時に利用者や家族等に看取りに関する事業所の対応指針を説明し同意を得ているが、利用者や家族等と早い段階から話し合い対応方針を共有したり、利用者の状態の変化や段階毎に利用者や家族等の意向を確認するまでには至っていない。</p>	<p>重度化した場合や終末期のあり方をできるだけ早い段階から利用者や家族等と話し合い、方針を共有するとともに利用者の状態の変化のたびに家族等や関係者で話し合い、意向を確認することを期待する。</p> <p>利用者が安心して納得した最期を迎えられるように利用者のかかりつけ医と連携を図ることを期待する。</p>
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、〔月1回の避難訓練の実施〕地域との協力体制を築いている	年1回消防署立会いの総合訓練を実施するとともに、月1回事業所独自の避難訓練を実施しているほか、地震を想定した避難訓練も実施している。 スプリンクラーを設置するとともに災害時に備えて米や飲料水を備蓄しているが、避難訓練に地域の消防団や近隣住民の参加を得るまでには至っていない。	地域の消防団や近隣住民に避難訓練への参加が得られるよう、運営推進会議等で働きかけることを期待する。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者一人ひとりの思いを尊重し誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に配慮している。 個人情報を使用する場合は家族等の同意を得るなど、プライバシーの保護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれ〔理髪、毛染め、買い物〕ができるように支援している		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。庭で一緒に作った畑の野菜などを調理して食すことで食べる意欲を促すようにしている	理念の一つに「私達は入居者の“幼い頃の味”を大切にし、地域の食材を生かした食事を味わっていただきます」と謳っているように、食事が楽しみなものになるよう自家菜園で収穫した野菜を取り入れたり、利用者一人ひとりの好みや残存能力を活かしながら利用者と職員と一緒に食事の準備や後片付けをしている。 献立は法人の栄養士が作成し管理している。 職員は利用者の介助をしながら同じテーブルで食事を摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や、習慣に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	職員は利用者一人ひとりの排泄を記録するとともに排泄パターンを把握したり習慣を活かし、早めに誘導することでトイレで排泄ができるように支援をしているほか、排泄の自立に向けた支援をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は基本的に2日に1回と決まっているが、利用者一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、毎日の入浴や希望の時間に合わせた入浴も支援している。 入浴を拒む利用者には無理強いをせず言葉かけに工夫をしたり、時間帯を変えるなどで入浴ができるように支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。認知症や廃用性症候群が進行しない程度に本人の自由な生活時間をすごせるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。また服薬の支援については、特養の看護師およびかかりつけ病院と連携をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている 買い物が好きな人のために介助しての外出、歌が好きな人などのためにCDや歌帳を用意する、書道、季節の催し物に外出したりしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し出かけられるように支援している。	職員は利用者が日常的に散歩をしたり庭や畑で外気浴が楽しめるように支援をしているほか、デパートでの買い物や外食を支援したり、花見や観光などの行事を年2回計画し、利用者の希望を把握しながら家族等の協力を得て、外出ができるように支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している 外出の際は、金銭間違いがないように必要に応じた見守りなどの支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室および食堂は一般家庭照明を用い窓の日差しはカーテンなどで調節し、職員もゆっくり話すなど、音の大きさや光の強さに配慮し、居心地よく過ごせる。玄関は四季の花があり、家族や入居者にとって親しみやすく安心して出入りできる。	居間はゆったりとした仕様で、一般家庭用の照明を使用して利用者が落ち着いて過ごせるよう配慮している。 利用者の作品や季節の花を飾り、生活感や季節感を取り入れて利用者が居心地良く過ごせるよう工夫をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。歌の好きな方がたのテーブルを作ったり、ベランダ、玄関にベンチを用意しめいめい好きなようにすごせるよう工夫している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	布団はなじみの物を持ってきて使用してもらっている。今まで本人が使用していたものや思い出の品などを持ち込み、居心地よく過ごせる工夫をしている。	利用者は居室に仏壇や使い慣れた好みの物品、思い出の品を持ち込んでいる。居室に洗面台が備え付けられており、利用者は朝の身支度を自分で整えるなど居心地よく暮らしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーである。廊下は車椅子がゆったり通れる広さが確保されており、高齢者に使いやすい位置に手すり、コンセントなどがつけられている。自動火災報知通報装置設備のほか安全に暮らせるよう工夫されている。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)</p>	<p>1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある ○ 3, たまに 4, ほとんどない</p>
65	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)</p>	<p>1, 大いに増えている ○ 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない</p>
66	<p>職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)</p>	<p>○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない</p>
67	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。</p>	<p>○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない</p>
68	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。</p>	<p>○ 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない</p>

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム千代川さくら館

作成日 平成23年8月12日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議に地域の代表や民生委員の参加が得られるように働きかけることを期待する。	運営推進会議に区長や民生委員などの会議への参加を働きかけていく。	これまでも地域代表の方々は運営推進会議に参加していただいている。今後も引き続き区長や民生委員の方々をお願いしていく。	これまでも働きかけてきたが、今後も働きかけていく。
2	33	重度化した場合や終末期のあり方をできるだけ早い段階から利用者や家族と話し合い、方針を共有するとともに利用者の状態の変化のたびに家族等や関係者で話し合い、意向を確認するところを期待する。 利用者が安心して納得した最期が迎えられるように利用者のかかりつけ医と連携を図ることを期待する。	重度化した場合や終末期のあり方をできるだけ早い段階から利用者や家族と話し合い、方針を共有するとともに利用者の状態の変化のたびに家族等や関係者で話し合い、意向を確認する。そして、利用者が安心して納得した最期が迎えられるように利用者のかかりつけ医と連携を図っていく。	これまでも、利用者や家族とは、早い段階から重度化した場合や終末期のあり方を話し合い、方針を共有するとともに利用者の状態の変化のたびに家族等や関係者で話し合い、意向を確認してきた。今後も利用者が安心して納得した最期が迎えられるように利用者のかかりつけ医との連携強化を図っていく。	これまでも取り組んできたが、今後も努力していく。
3	35	地域の消防団や近隣住民に避難訓練への参加が得られるよう、運営推進会議等で働きかけることを期待する。	地域の消防団や近隣住民に避難訓練への参加が得られるよう運営推進会議等で働きかけていく。	地域の消防団とは防災協定などで協力してもらっている。今後は、地域の消防団や近隣住民に避難訓練への参加をお願いしていく。	平成23年度中に働きかけていきたい。
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。